

社会科 NAVI

→ここに注目!

「未来の学校
みんなで創ろう。
PROJECT」
という試み



本資料は、一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り、
配布を許可されているものです。

※本冊子掲載QRコードのリンク先コンテンツは予告なく
変更または削除する場合があります。
※QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

日文の教科書情報

詳しくはWebへ!

日文

検索



未来をになう子どもたちへ

日本文教出版



表紙写真解説

三内丸山遺跡：日本最大級の縄文集落跡。写真は大型掘立柱建物（復元）で、その用途については、物見やぐら、神殿、モニュメントなど様々な説がある。平成12年11月に国特別史跡に指定。令和3年7月27日には、「北海道・北東北の縄文遺跡群」として、国内20件目の世界文化遺産への登録が決定した。
写真提供 読売新聞／アフロ

3

著者だより

ESDとしての異文化理解

広島修道大学教授 永田 成文

4

ここに注目！

「未来の学校みんなで創ろう。
PROJECT」という試み

東京学芸大学 教育インキュベーションセンター教授 金子 嘉宏

8

特別対談

深い学びへ誘う社会科の授業づくり

視点の意識化と問いの質の向上の取り組み

～兵庫県佐用町立利神小学校の研究から～ 刊行記念

広島大学准教授 永田 忠道

元兵庫県佐用町立利神小学校校長 桑田 隆男

10

実践ファイル～デジタル教科書・教材を使って～ **NEW**

（小学校編）世界の諸課題に対してできることを考えよう

東京学芸大学附属竹早小学校 上野 敬弘

（中学校編）ヨーロッパが統合する意義を考えよう

奈良教育大学附属中学校 中村 基一

18

授業力アップをめざす先生のための社会科のABC

（小学校編）観察力と指導のポイント

國學院大學教授 安野 功

（中学校編）持続可能な社会の担い手を育てるために、
中学公民と公民科「公共」の接続を

おおさか学びの会（前大阪教育大学非常勤講師） 丹松 美代志

20

地域の歩き方 vol.4

歴史からみた伏見探訪

京都橘大学非常勤講師 杉山 勉

22

ようこそ！ 歴史史料の世界へ vol.28

焼跡の子どもたち

一敗戦直後の報道写真から

日本大学教授 大岡 聡

24

現代社会ウォッチング vol.14

ワクチン接種をめぐる政治と行政（1）：国際比較

京都大学大学院教授 曾我 謙悟

26

授業にプラス！ 身近なSDGs **NEW**

誰でも楽しく簡単に農業ができる未来へ

長崎県壱岐市SDGs未来課

取材・編集協力 株式会社クリエイティブ・スイート（P.26～27）
イラスト 森のくじら（P.4, 8, 10, 14, 18, 24）
デザイン 株式会社京田クリエイション



リレーエッセイ

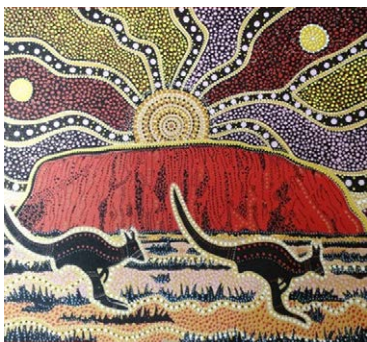


永田 成文(ながた しげふみ)

専門分野／社会科教育学

主要著書／『市民性を育成する地理授業の開発ー「社会的論争問題学習」を視点としてー』(風間書房, 2013年), 『持続可能な社会を考えるエネルギーの授業づくり』(共編著, 三重大学出版会, 2017年)

日本文教出版『中学社会』教科書著者



アボリジナルアートの特徴である
ドットペイントでウルルを表したプレイスマット

ESDとしての異文化理解

広島修道大学教授 永田 成文

2017年と2018年の小・中・高等学校の社会系教科の学習指導要領では、持続可能な社会づくりを目指す持続可能な開発のための教育(ESD)の導入が強調された。2015年の国連総会で採択された持続可能な開発目標(SDGs)の17目標は、ロゴマークと行動で示され、児童・生徒に行動の変革の必要性を直感的に訴えることができる。

現代世界では、人々の行動様式や価値観の違いにより、様々な地域レベルにおいて文化摩擦が生じている。ユネスコ(2005)のESD国際実施計画では、重点分野として「文化の多様性と異文化理解」が示されなくなった。また、SDGsの17目標には異文化理解に該当するものがない。平和な世界の構築は持続可能な社会の基盤である。ESDとしての異文化理解の授業を積極的に導入したい。

世界文化遺産には、人々がその地域で大切にしてきた行動様式や価値観を読み解くヒントが隠されている。オーストラリアの一枚岩のウルルは、1987年に世界自然遺産に登録され、1994年にアボリジニの神話や生活の文化的側面が再評価されて複合遺産となった。ウルルは同国の主要な観光地となっている。ウルルを古来より管理してきた先住民のアナング族は、宗教的な聖地であるウルルに登らないで周りを散策して欲しいとアピールしてきた。2019年10月までは、登山自体は禁止ではなかったため、「観光として登りたい」と「聖地を荒さないでほしい」という思いから文化摩擦が生じていた。

「ウルルを管理してきたアナング族はどのような生活を送っているだろう」「なぜアナング族は観光客にウルルに登ってほしくないのだろう」「観光として認められている場合にはウルルに登ってよいかなどの問いから、多文化共生を意識したESDとしての異文化理解の授業となる。

筆者は2017年9月にウルルに訪問した。登山口に立った筆者の行動は想像にお任せしたい。

ここに注目!

「未来の学校みんなで創ろう。PROJECT」という試み

●東京学芸大学

教育インキュベーションセンター教授

金子 嘉宏

1 ベンチャーキャピタルと 国立大学の連携協定

平成30年9月。国立大学法人東京学芸大学とMistletoe株式会社（現「Mistletoe Japan合同会社」以下、「Mistletoe」とする）は「教育環境をデザインし、教育の新しい在り方を社会に提案する。」ことを目的とした連携協定書を締結し、公教育をアップデートするために「Explayground事業」（以下、「EXPG」とする）を協働で開始した。Mistletoeは出資・研究開発・スタートアップとの共同創業・エコシステムの構築などを行うベンチャーキャピタルである。今回紹介させていただく「未来の学校みんなで創ろう。PROJECT」

（以下、「本プロジェクト」とする）はEXPGの中の一つの大きな取り組みとして進められており、公教育に対してのコレクティブ・インパクトを起こそうということが本プロジェクトの起点となっている。EXPGについての説明は別の機会にさせていただくとして、早速、本プロジェクトについての説明に入りたい。

本プロジェクトの目標はシンプルである。「10年後の学校を3年後に実装させる」というものだ。

「今の教育の問題の本質は何か」、「どのような教育が理想の教育か」というような根本的な問いはいったん脇に置いて、まず具体的な課題を設定



した。その意味で本プロジェクトはPDCAサイクルでなく、OODAループを意識して進められている。理想の学校像を描き、そこに到達するための計画をたて、計画を実行していくのではなく、現状を観察し、迅速に多様な打ち手を打つことを繰り返し、その総体として学校が変革されていくというプロセスを取ろうとしている。そのため、後述するような各参加者の思いを起点とした多様なプロジェクトが並行して進められていくことになる。次に本プロジェクトにおいて、現状についてどのように捉え、どのような打ち手を打ち、どのようなプロジェクトが進んでいるかを説明したい。

2 学校は教育の場であると同時に 社会のシステムの一つである

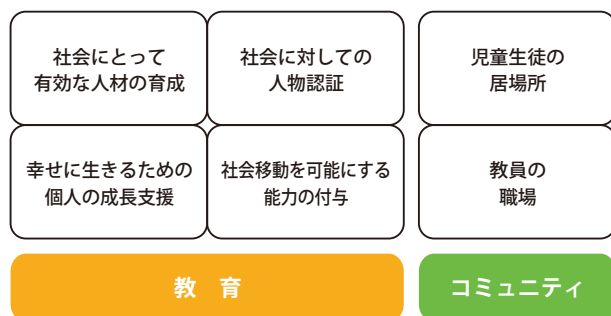
学びの多様な局面におけるよりよい教育方法、よりよい学びが研究され、実践されてきた。その成果は学習指導要領などに反映され、学校が変革されてきた。これからも継続して研究、開発、実践していくことは重要である。このような教育方法をアプリと考えた場合、そのアプリが実践される学校というシステムは、ある意味OSということができないのではないだろうか。教育関連の法律、教育委員会が決めているルールや学校の環境等である。どんなにいいアプリをつくってもOSが古いままではアプリは稼働しないのと同じように、よりよい教育方法を実践することが可能な基盤に現状の学校というシステムはなっているのかということを見直す必要があるのではないか。よりよい教育を実装させるためにも、社会のシステ



▲教員と企業人が混在する会議（2020年1月）

ムとしての学校を変えること、本プロジェクトは、各局面での学びや教育の方法だけでなく、社会のシステムとしての学校を変革することを目指している。

では、社会のシステムとして、学校が担っている役割とはどういうものだろうか。筆者は大きく公教育の側面とコミュニティの側面があると考ええる。公教育としての役割には、①社会にとっての有用な人材の育成、②幸せに生きるための個人の成長支援、③社会に対しての人物の認証、④社会移動を可能にする能力の付与の4つがあると考えている。コミュニティとしての役割には、⑤児童生徒の居場所、⑥教員の職場の2つがあると考えている。学校を学びの場として、①、②、④については多くのことが議論されてきた一方、③、⑤、⑥についてはあまり語られてこなかったのではないだろうか。しかし、①、②、④の役割の部分を変えるだけでは、社会のシステムとしての学校は変えられないのではないだろうか。（図1）

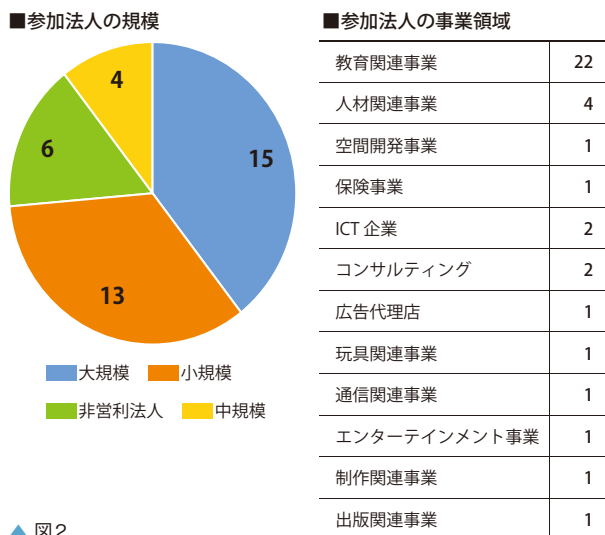


▲ 図1 学校の役割

3 学校の役割の多様性と学校組織の画一性

前述のように学校を社会システムの一つとして考えたとき、学校に課せられた役割は多様である。では学校の組織はどうなっているだろうか。学校の組織はほぼ教員免許を持った教員で構成されており、画一的な組織といえる。多様な役割を果たしていくためには多様な能力が必要になる。それを画一的な組織で対応していくのは本来大変難しいことである。本プロジェクトは、東京学芸大学附属竹早学校区をメインのフィールドとして、38の法人と2つの教育委員会（緩やかな連携とあわせて5つの教育委員会）で構成されている。38の法人は大企業、スタートアップ、非営利法人等、規模も多様であれば、教育関連企業だけでな

く多様な業種の法人が参加している。本プロジェクトは学校の変革を多様な参加者によって行っていくとしている（コレクティブ・インパクト）が、変革のプロセスだけでなく、その先にある未来の学校の組織は、多様な人材によって構成されている必要があると考えている。（図2）



▲ 図2

4 学校組織に多様性を生み出すための教員の信頼感の醸成

多様性に富んだ組織がうまく働くためには、多様性の中に信頼が醸成されることがポイントとなる。学校の場合、特に教員の多忙感が高く、外部の人材が入ることによる多忙感の増幅は大きな問題となる。児童生徒の命、成長を預かる教員の責任感は外部の人材が入ることへの拒否反応を生む。このような阻害要因をなくしていくために「この人には仕事が任せられる」という信頼感の醸成が不可欠である。本プロジェクトでは、その糸口として「未来

好きに、挑む。

学校は「答え」を探す場所でしょうか？
「正解」を教える場所でしょうか？

私たちはこれからの学校が、
「答え」より「好き」を見つけられる場所であってほしいと考えています。
広い世界を自分の足で歩き、自分の目で見つめ、自分だけの「好き」を見つける。
そんな一番星を見つけた子どもたちの、色とりどりの「好き」で溢れる教室があったら、
明日の学校がどんなにワクワクするでしょう。

夢中で「好き」に挑むその熱量は、きっとどんなルールや知識をも超えて、
社会を大きく動かす原動力になると私たちは信じています。
「好き」に挑む人生、明日の学校がその第一歩になりますように。

▲ 図3 好きに、挑む。

の学校とは？」というヴィジョンづくりのワークショップに参加する企業や大学教員と学校教員とで行った。「好きに、挑む。」(図3)、その際生まれてきたヴィジョンである。学校とは児童生徒が自分の「好き」を思いっきりできる場所であってほしいという思いが学校教員から多く出された。ただ好き勝手に好きなことをやっていけばいいというものではないという側面もあり、その意味が「挑む」という言葉に込められている。ワークショップで出た意見を株式会社博報堂のコピーライティングとデザインのプロフェッショナルが形にしてくれた。さすがだと感服する。

このヴィジョンは、実は児童生徒に向けられただけのヴィジョンではない、「大人も好きに、挑む。」という意味も込められている。本プロジェクトに参加する大人は教員であろうと、企業人であろうとお互いの「好き」を尊重しながら、責任をもって「好き」に挑んでいこうということである。信頼感を醸成するためにヴィジョンをつくるというプロセスを実践したのだが、できあがったヴィジョンそのものも信頼感を醸成するものになったのではないだろうか。本プロジェクトの名称もとても大切な意味を持っている。プロジェクトの開始時は「未来の学校」というプロジェクト名であったが、「未来の学校みんなで創ろう。PROJECT」(図4)に変更した。この「みんなで」という言葉が入ることで信頼感が醸成され、常に意識することができる。この名称も博報堂からの提案である。本当に感服する。



▲ 図4 未来の学校ロゴ

もう一つ、信頼感を醸成するための打ち手を打った。「職員室内コワーキングスペース」である。竹早小学校、竹早中学校の職員室に机を準備してもらい、本プロジェクトの参加者に開放した。本プロジェクトに関わるだけでなく通常業務をしていただいてもいいことにし、職員室内をコワーキングスペースにしようとしたということである。9月の後半から12月末まで、コロナ禍の影響で学

校への外部の人材の入校が規制されるまでの3か月間、試行し、複数の企業の参加者に活用していただいた。筆者も週に2・3日のペースでコワーキングスペースを活用させてもらった。「よく顔を合わせる」ということにより、距離感は縮まり、企業からの参加者は先生との立ち話から問題を解決したり、プロジェクトを実行したりということで一定の成果は見られた。課題も多く見つかった。企業側の参加者がコワーキングで働くモチベーションや教員側の受け入れのマインドの醸成などである。教員全員のコンセンサスが取れていなかったこともあるが、全体の「信頼感」の醸成というところまでは達成できなかった。現在、コロナ禍のこともあり、いったん停止しているが、一つのプロジェクトとしては設定し直され、竹早学校区だけでなく、連携している市町村の教育委員会との検討にも入っており、今年度内に何らかの実践検証を行う予定である。

5 先進的な事例と公教育の変革

本プロジェクトで意識してきたことがもう一つある。それは、「公教育において実装可能な変革」ということである。附属で実践研究を行った場合、「附属だからできる」と認識され、その研究成果が公教育に普及していかないこともある。公教育を変革する際「1人の100歩よりも100人の1歩」が大切であると考えている。先進的な事例もそれが公教育において実装できなければ価値を十分に発揮できないことになる。

附属竹早学校区だけでなく岩手県山田町教育委員会、岡山県津山市教育委員会と連携協定を締結し、3地域同時に本プロジェクトを推進していくことで公教育における実装を担保していこうと考えている。それぞれの地域により問題や課題は異なるものの、それを調整しながら、個別にかつ協働でプロジェクトを推進していこうとしている。このように多様な地域が参画しているという点でもコレクティブ・インパクトであるといえる。

この公教育において、実装させるという点において企業の存在は大きい。企業は理想を描きつつ、それを社会に実装させることに重点を置く。どんないい理想が描けても実装されなければビジネスとしては成立せず、企業としては意味を持ち

えない。本プロジェクトで進めている「GIGAスクール時代の教室と授業ワーキング」では、児童生徒にデバイスが配布された現状でどのような教室が整備されるべきか、どのような授業が実践されるべきかを検討していこうとしているが、多額の予算をかけ、最先端技術を導入した教室をつくって実践するのではなく、どのような教室であれば公教育において導入可能なのか、どのような教室ならば各教員が広くICT等の技術を活用して授業を深められるのか等、導入可能性と最適化の両面から検討していこうとしている。附属学校以外でも実装可能なモデルを構築してこそ、企業はビジネスとしての可能性を見出すことができ、多様なリソースを投入することが可能になる。

本プロジェクトでは、多様な地域での同時並行でのプロジェクト推進、公教育において実装可能なモデルの開発をすることで、学校という社会のシステムにインパクトを与えたいと考えている。

6 具体的なプロジェクトと全体像

現在、参加者の「好き」を起点とした7つのプロジェクト、17のワーキングに整理してチームをつくり、今年度2学期からの実践に向けての準備を進

プロジェクト名	ワーキング
VR	教科教育における VR 活用
	VR による学校の場の変革
GIGA プロジェクト	GIGA スクール時代の教室と授業
	教育のデジタルデータの収集と分析と活用
	オンライン PBL / ワークーション
未来の図書館／ ゲーミフィケーション	ゲーミフィケーション
	未来の図書室／デジタルアーカイブ
子ども支援	不登校の学習支援
	学校の居心地／新しい評価
個に応じた学び／ THIRDPERSON	集団での探究学習の個別適応
	キャリア教育や学習全体、部活動など個別適応
基礎学力	竹早エリア
	津山エリア
	山田エリア
教員の働き方	外部人材導入
	教員の満足度・Well-being
	校務改善

▲ 図5 プロジェクトとワーキング

めている。いくつか前述しているが、最後に、いくつかのプロジェクトについて説明をして終わりにしたいと思う。(図5)

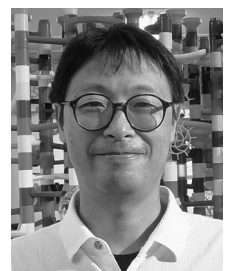
「基礎学力ワーキング」では「基礎学力は全員の児童生徒が義務教育を終える際に概ね獲得しておくべきではないのか」という問題に焦点を当てている。ただし、児童生徒の学び方、学ぶスピードが多様なため学校だけで基礎学力の獲得を担保することが難しい。であれば、社会全体で児童生徒の基礎学力の獲得を担保するシステムを創るべきではないかということ課題として設定し、「デジタルアイデンティティ」や「個別最適化された教材」等のICT技術を活用しようとしている。夏休みから2学期にかけて、竹早、津山市、山田町等において実践を計画している。

「教育のデジタルデータの収集と分析と活用ワーキング」では、GIGAスクール構想に伴って収集可能となる教育や学習のデジタルデータをどのように分析し、活用するかを、「学校の居心地／新しい評価ワーキング」では、学校における児童生徒のWell-beingを達成し、学校の居心地をよくするにはという課題を設定し具体的な実践を進めていく。「教員の働き方プロジェクト」は、教員という職業の魅力を増大させるということに焦点を当て、先述した学校内コワーキングの可能性や、教員の職場としての学校の環境や教員の学びの見直しに課題を設定している。

学校の持つ多様な問題に焦点を当て、それぞれに課題を設定し問題を解決することを目的とした17のワーキングが同時に並行的に推進されていく。現段階では学校の変革に必要な全体を網羅しているわけではないかもしれないが、試行し、検証をしながら、多様な問題解決を行いつつ、ワーキングを統廃合したり、新たに構成したりしながら、総体として学校を変革していくことができるのではないかと考えている。

● 金子 嘉宏 (かねこ よしひろ)

専門分野／社会心理学、教育支援協働学
主な活動／一般社団法人東京学芸大
Explayground 推進機構事務局長、一般社団法人 STEAM Japan、一般社団法人教育支援人材認証協会、NPO 法人東京学芸大こども未来研究所、日本教育支援協働学会の理事を兼任。企業と大学、学校をつなぐ協働の推進、新しい「学びの場」の研究開発、普及に取り組んでいる。



深い学びへ誘う 社会科の授業づくり

視点の意識化と問いの質の向上の取り組み

～兵庫県佐用町立利神小学校の研究から～ 刊行記念



広島大学准教授 永田忠道

×

元兵庫県佐用町立利神小学校校長 桑田隆男

2021年4月、『深い学びへ誘う社会科の授業づくり 視点の意識化と問いの質の向上の取り組み～兵庫県佐用町立利神小学校の研究から～』が刊行された。刊行を記念して著者の永田忠道先生と桑田隆男先生がオンラインで対談をおこなった。



——利神小学校の研究成果を書籍化したいと思われたのは、どういった理由からでしょうか？

永田：利神小学校との出会いは、2018年から2年間おこなわれた社会科の授業研究で指導助言させていただいたことがきっかけです。

利神小学校では、桑田先生を中心に先生方や子どもたちが地域の人たちとの関わりを大切にしながら、「社会科の本当の姿」を追い求めている、この営みはほかにはない価値があると思いました。

あと、この学校が2020年3月で閉校になったことも理由の一つですね。

——桑田先生は、「社会的な見方・考え方」を働かせた社会科の授業づくりのための手立てとして「授業構想シート」などを開発しました。なぜ、このシートを作成しようと思ったのでしょうか？

桑田：利神小学校の多くの先生方が社会科の授業研究をするのがはじめてだったんですね。

「授業構想シート」には、どの視点に着目すれば、どのような問いを生み出せるかや、問いを生み出すための適切な資料は何か、言葉の力をどう育てるのかを書きこみます。事前研究会でこのシートを使って参加者の意見を整理することで授業改善の手がかりが得られればと思い、作成しました。

永田：最近、子どもたちは、社会科や総合的な学習の時間などで「思考ツール」を使いますね。

「授業構想シート」は、先生方の研修用に作られた「思考ツール」だと思うんですね。

	したごしらえ（メモ書き）			授業構想（案）		
	視点	問い		視点	問い	
視点と問い						
適切な資料はどんなものか	導入	検証	まとめ	導入	検証	まとめ
言葉の力をつけるために	資料を読み取る力	書く力	発言する力	資料を読み取る力	書く力	発言する力

▲ 授業構想シート

どこに視点を置いて、どのような問いで社会科の指導案を作成すればいいのかわからない先生には、「授業構想シート」があったうえで指導案を作成したり、このシートと指導案を行き来したりすることで、指導案の作成を可視化できると思います。

桑田：そうですね。「授業構想シート」は、思考のフレームワークと言えますね。

利神小学校の先生方は、このシートを使い、視点と問いをどう絡めるのかや、導入でどんな資料を使うのか、そういったことを1年で習得しました。ですので、2年目はこのシートを使わず、いきなり議論からはじめました。こんな風に校内研修も変容していったことを思い出しました。

——この本の第5章では、子どもの学びを教師の見取りを生かして評価した、二つの事例が書かれています。どうすれば、教師は子どもに意味のある支援や評価ができるのでしょうか。

桑田：教師が子どもたちを数値で評価するだけでなく、子どもたちの学びをどうやってとらえられるかが、指導の評価にもつながりますし、ひいては子どもの学びの成長にもつながると思います。

利神小学校の先生方には、子どもの言葉や作品から学ぶという姿勢をもってほしかったので、私が気になった子どもの作品については、「この子ど

もは、この学習から何を学んだと思いますか？」などと先生方に問い、話し合う機会をつくっていました。

教師が子ども一人ひとりの学びの過程を物語のようにストーリー立てて語れるかが、意味のある支援や評価につながる一番大事なポイントだと考えています。子どもを見取る力を高めるためには、事例研究しかないのかなと思っています。

永田：桑田先生は、子どもの発言や作品に対して瞬時にそのよさを受けとめ、さらにこの子

永田：社会と学校や社会科は、本来、全部つながっているはずなのに、分断されている部分があるのも事実だと思います。だからこそ、社会科の原点に戻って、社会科が社会と学校を結びつける役割を果たさなければいけないのではないのでしょうか。私たちは、社会の出来事を表層だけ見てはだめで混沌とした状況でも答えのないものを探り、見いだしていかなければならない。

自分や家族、地域にとって何が最善なのかを考える、そういった力を子どもたちにつけていくの

が、社会科の大事なところではないでしょうか。

目指すべき「深い学び」で特に貢献できるのが社会科だと思うんですね。

桑田：利神小学校では、先生方が家庭や地域を巻きこみながら、地域にある「生きた資料」を教材化しました。そうやって創りだした地域教材を子どもたちが学ぶことで、彼らが地域を大切に思い、地域に関心を持ち続ける意欲を高めたことが「深い学び」につながったのだと思います。

今、佐用町では、町内の4小学校と4中学校が連携教育を軸にして、子ども

たちを育てていこうと頑張っているところです。社会科がもつ家庭や地域を巻きこむ力を信じて、カリキュラムを創っていくことが現場にいる私たちができる最大のカギなのかと考えています。

もがここで留まっていっていいのか、もう一声かけたら、もっとできるんじゃないかっていう、こういった評価の眼をもっておられるのがすごいと思います。

やっぱり、先生が一人ひとりの子どもをこういった評価の眼で見ているかどうか大切です。

そのために、何ができれば評価の眼が鍛えられるかと言ったら、社会科の場合はやっぱり、教材研究しかないと思いますね。

——目指すべき「深い学び」へと進むために、何が必要でしょうか。また、地域から創出される社会科を取り戻すために、学校や教師は、どのようなことに取り組めばよいのでしょうか。



『深い学びへ誘う社会科の授業づくり 視点の意識化と問いの質の向上の取り組み〜兵庫県佐用町立利神小学校の研究から〜』
永田忠道・桑田隆男著
日本文教出版 2,200円
(本体2,000円＋税10%)
書籍のご購入は、全国の書店
または Amazon.co.jp で買い求め下さい。

● 永田 忠道 (ながた ただみち)

専門分野／社会科学、教育学、教科教育学(社会科・生活科) 主要著者／『地域からの社会科の探究』(日本文教出版)、『新しい生活科教育の創造―体験を通じた資質・能力の育成―』(学術図書出版社)、『新・教職課程演習 初等社会科教育』(協同出版) 日本文教出版『小学社会』教科書著者



● 桑田 隆男 (くわた たかお)

昭和59年から兵庫県で小学校教諭、平成9年に兵庫教育大学大学院修士課程修了。令和2年から現職。校内研究推進に重点を置き、教師生活を送る。社会科や道德教育、人権教育、へき地教育等の研究に取り組む。日本文教出版『小学道德生きる力』教科書著者





世界の諸課題に対して できることを考えよう

●東京学芸大学附属竹早小学校 上野 敬弘



本単元は、「国際交流」と「国際協力」の二つの項目から構成されている。本稿で取り上げる小単元は、地図帳や地球儀、各種の資料を通して、グローバル化する国際社会において平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしているわが国の役割について理解し、国際連合の働きやわが国の国際協力の様子を捉え、国際社会におけるわが国が果たしている役割について考え、表現することを目標とする「国際協力」に該当する実践である。

世界規模で戦争や紛争、環境破壊や食糧危機などの諸問題が発生しているが、そのことを児童が日常生活の中で気づくことは身近な問題でないだけに難しい。そこで、学習を進めていく際、可能な限り写真資料等を使って視覚的に現在

世界が抱える諸問題を提示していくが必要になる。そこで、デジタル教科書に備わっている凡例別表示機能や拡大表示機能を活用して、資料の読み取りからわかったことや考えたことを共有する活動を取り入れることで、本小単元の目標である「国際協力」の重要性に迫っていきたい。

本時のまとめでは、「世界の平和の実現に向けた自分の考え」を単元を通して継続的に考えるために、学習したことを振り返りながら「世界の諸課題の解決に向けて自分にできることは何か」を考える活動を取り入れた。自分にできることの選択・判断を日常生活に落として考えることで、世界の諸課題と自分の日常との関連を構築していきたい。

A 南スーダンで活動する自衛隊員

- ・掲載されている写真を単独拡大表示することができます。
- ・「スタンプ」機能を活用して、注目させたい場所をわかりやすく示すことができます。

B 第二次世界大戦後のおもな戦争・紛争地と、地雷を禁止する条約に同意した国

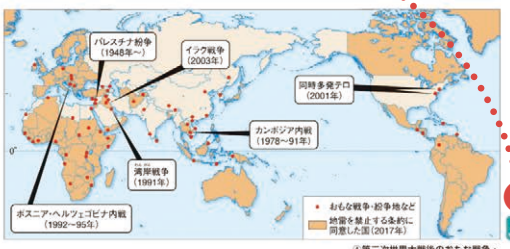
- ・地図を凡例別に ON/OFF を切り替えることができます。
- ・世界地図上には、事前に撮影したり、保存したりした写真資料を貼り付けることができます。



①南スーダンで活動する自衛隊員



②地雷で片足を失った子ども（南スーダン）



③第二次世界大戦後のおもな戦争・紛争地と、地雷を禁止する条約に同意した国



④爆り出された地雷



⑤ユニセフの支援で送られてきた予防接種を受ける子どもたち（アフガニスタン）



⑥ユニセフの支援を受けた日本の小学校の給食（1949年）

世界の平和と国連 ゆいさんは、世界でおきている戦争や紛争に対して、国連がどのような取り組みをおこなっているか調べることになりました。

アフリカの南スーダンでは、長く国内の紛争が続いていました。2005（平成17）年に終わりました。この状態を保つことを目的として、国連が活動をはじめ、2008年からは日本の自衛隊も活動に参加しました。2011年には南スーダンが独立し、以後、この地域の平和と安全を守ること、南スーダンの発展のために、国連はさまざまな支援をおこなっています。自衛隊も、国連施設の整備や道路の補修などをおこない、国連の活動に参加しました。

また、世界各地でおこなわれた多くの戦争や紛争などで、戦争中にうめられ、そのままになっている地雷は、約1億個あるといわれています。地雷は、ふみつけるとすぐに爆発するので、今なお地雷で命を落とす人があつたをたません。

国連は、地雷の製造などを禁止する国際条約の取り決めを結ぶように各国に求め、多くの国が対地雷全面禁止条約に署名しました。

ゆいさんたちは、国連のなで、すべての子どものためのさまざまな活動を支援する目的で組織された、ユニセフについても調べてみました。

ユニセフは、世界の子どもが平和と健康に育つよう、子どもの権利条約を基本にして、保健・衛生・栄養・教育などの支援をしています。

うえや病気で困っている子どもたちに、食料や薬品を送ったり、だれもが予防接種を受けられるようにするため、募金活動をおこなったりしています。日本も、第二次世界大戦後、15年にわたって紛争地などの食料援助を受けていました。2011年に発生した、東日本大震災のときも支援を受けました。

ユニセフの活動により、多くの子どもの命は救われましたが、まだ数多くの子どもが命の危険にさらされています。

世界には、命の危険を感じながら生きている子どもたちがいます。

わたしは学校で、ユニセフの募金活動をしたことがあります。一人一人の力が小さくても、多くの人が協力すれば大きな力になると思う。

教科書 P.258-259

C 関連語句

拡大機能を活用することで該当部分を大きく表示させ、クラスで語句の意味を共有することができます。

D 「ふせん」機能の活用

「ふせん」機能を活用して、図版名を隠すことで、写真資料に興味を持ってアプローチさせることができます。

E 資料の左右同時配置

二つの資料を単独拡大した上で左右に並べて配置をすることで、資料の比較をしやすいことができます。

本時の目標

諸資料の読み取りを通して平和の実現に向けて取り組む国連の支援活動について理解し、それらをもとに世界の平和の実現に向けて自分は何ができるかについて考える。

本時の評価

〈知識・技能〉

・世界が抱える諸問題について諸資料から読み取り、それらを解決しようと取り組む国連の活動について理解している。

〈思考力・判断力・表現力等〉

・諸資料から読み取ったことをもとに、世界の平和の実現に向けて自分にできることは何かを考えることができる。

本時の展開例

児童の活動と内容

⌚…配分時間

教…教師の発問・指示・説明例

児…予測される児童の発言

① 導入：第二次世界大戦後に発生した戦争や紛争の発生地について考える。

教 第二次世界大戦後、大きな戦争や紛争が発生した場所について知っていることを発表しましょう。

児 前の学習で、シリアで争いがあることを資料で見た。

児 歴史の学習で、朝鮮半島で戦争があったことを学習したね。

教 「第二次世界大戦後のおもな戦争・紛争地」と世界地図を重ね合わせてみると、新しくわかることは何ですか。

児 アフリカ大陸やオセアニア大陸で戦争や紛争が多く発生している。

児 ヨーロッパや南北アメリカ大陸でも起きている。世界規模で起きている。

児 発生した年を見ると、第二次世界大戦後も戦争や紛争が続いていることがわかる。

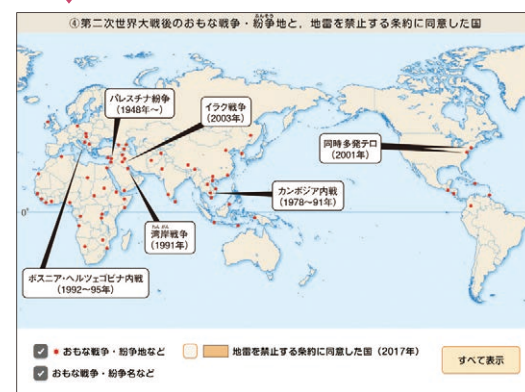
教 このように世界規模で発生している戦争や紛争などの問題に対して、国連はどのような取り組みをしているのか調べていきましょう。

指導上の留意点

・前時までの学習で取り上げた戦争や紛争に関する写真資料を予めデータにしてプロジェクターなどで表示ができるようにしておくことで、これまでの学習を振り返りながら本時の学習問題に迫れるように支援したい。

・凡例別表示機能を用いて、「第二次世界大戦後のおもな戦争・紛争地」を表示し、分布に着目して世界規模で戦争や紛争が発生していることに気づかせることで、位置や空間的な広がり の視点を育みたい。

・資料の読み取りを段階的にやるよう、「おもな戦争・紛争地」の分布を読み取った後、「おもな戦争・紛争名」を表示させる。その際、それぞれが発生した年に着目することで、第二次世界大戦後も戦争や紛争が終わっていないことに気づかせ、「時期や時間の経過の視点」を育みたい。



学習問題 国連は、戦争や紛争などの問題に対して、どのような活動をしているのだろう。

本時の展開例

児童の活動と内容

⌚…配分時間

教…教師の発問・指示・説明例

児…予測される児童の発言

②展開：戦争や紛争などの問題に ⌚15分 対する国連の取り組みについて捉える。

教 スーダンで発生した紛争を例に、問題になっていることを捉えましょう。

児 片足を失って松葉杖をつく子どもがいる。

児 身なりを見ると裕福そうではないよ。

児 タイトルに地雷で片足を失ったとあるよ。

児 地雷って一体どんなものだろう。

教 掘り出された地雷を見て、気づいたことを話し合ひましょう。

児 とても小さいものだね。

児 たくさんあるけれど、それぞれが爆発したら写真の子のような被害がまた出るよ。

児 国連は、この問題について何をしているのかな。

教 国連は、スーダンでどのような活動に取り組んでいるのか、資料や教科書本文から読み取れることをまとめましょう。

児 日本の国旗「日の丸」と「UN」というマークを付けた隊員は、国連の活動に取り組む自衛隊の隊員だね。

児 世界で地雷の製造などを禁止する取り決めに国連は先導したんだね。

児 地雷禁止に署名した国も多いけれど、まだ署名していない国もあるのだね。

児 紛争が起きても、地雷を禁止する条約に同意していない国もある。

児 みんなが幸せにくらせるために、国連は他にどのような活動をしているのかな。

③展開：ユニセフが戦争や紛争地で ⌚7分 取り組む活動を捉える。

教 国連の中で、ユニセフという組織があります。「誰のために」「どのようなことを」ユニセフが取り組んでいるのか、資料をもとに予想しましょう。

児 小さい子どもが予防接種を受けている。

児 たくさんの子どもの何かを飲んでいる。

児 子どものために、食料や医療を支援しているのではないかな。

教 教科書本文をもとにユニセフが取り組む活動をまとめましょう。

児 保健、衛生、栄養、教育など子どもたちが平和で健康にくらせるように支援している。

児 日本も第二次世界大戦後や東日本大震災の時に支援を受けていた。

指導上の留意点

・ 単独拡大機能を用いて資料を提示し、写っている子どもの表情や服装、身につけているものにも着目させることで、戦争や紛争の問題の深刻さについて実感させたい。また、図版のタイトルを「ふせん」機能を活用して目隠しをすることで、「なぜ片足を失ったのか」と疑問をもたせ、「地雷」の恐ろしさとその問題性に気づかせたい。



・ 掘り出された地雷の数を数えたり、大きさを人と比較して予想したりするなど、図版の単独拡大機能を活用して資料をじっくりと見せていくことで、気づいたことを発表することが可能になる。

・ 本文の内容をもとに、写真資料が映し出していることを整理することで、国連の平和に対する取り組みを捉えさせたい。その際、児童の発言を元に、注目するポイントを「スタンプ」機能を活用して表示することで、資料を見るときの視点を共有できるようにしたい。



・ 「おもな戦争・紛争地」と「地雷を禁止する条約に同意した国」を重ねることで、分布の重なりの有無に着目することができる。この有無の比較から、紛争地等であった経験をもつ国でも地雷を禁止できない実態があることを捉え、問題の難しさを感じ取らせたい。



・ 教科書の図版⑤・⑥を、単独拡大表示をしたうえで、 をクリックすることで二つ並べて表示する。そうすることで、二つの資料を比較させたり、二つの資料に類似する内容を見つけさせたりしたい。



本時の展開例

児童の活動と内容

⌚…配分時間

教…教師の発問・指示・説明例

児…予測される児童の発言

④まとめ：本時の学習をまとめる。 ⌚15分

教 学習を振り返りながら、世界の諸課題の解決に向けて自分ができることを考え、意見を交流させましょう。

児 もっと調べて問題を知っていく。

児 自分も現地に行き、道路の補修作業をして支援する。

児 補修にもお金が必要だから、募金活動をして資金集めをする。

児 募金活動のためには、みんなに問題を知ってもらう必要があるから、みんなに知らせる呼びかけ活動を企画する。

指導上の留意点

・展開③の終末で取り扱う「日本もユニセフから支援を受けていた」という点を軸に、「自分たちも戦争や紛争等で苦しんでいる人たちに何かできないか」と問いかけることで、本時で取り扱う諸課題に対する自分の考えを明確にしていくことで、本時のねらいに迫っていきたい。

・児童が意見を交わしていくなかで、意見同士が関連することが予想される。矢印などを活用して関連性を示していくことで、クラス全体で問題の解決について考えていく環境をつくっていききたい。

国連は、戦争や紛争などの問題に対して、どのような活動をしているのだろう。

〈おもな戦争や紛争が起きた場所〉

世界各地で起きている

第二次
世界大戦後
ずっと起きている
なぜ？

アフリカ・
オセアニア大陸が多い

南北
アメリカ大陸で
起きている

オーストラリア
大陸だけ発生
していない

〈スーダンの様子〉

やせている ← 身なり

かんたん服
がきそう

元気が
なさそう

貧しい？

片足を失った子

悲しい

松葉づえ

身体が不自由

生活が不自由

走れない
あぶない

将来が不安

地雷による
被害

地雷禁止の
呼びかけ

多くの国が署名
署名がまだの国も…

紛争の
あった国

紛争の
なかった国

国連の活動

うしろに
子どもがいる

・小さい子
が注射されている

笑顔

・大きい子
が何かを飲んでいる

白黒写真 → 音???

日本も援助
してもらった

平和と安全を守ること、
様々な支援

国連施設の整備・
道路の補修

ユニセフの活動

子どものための支援

平和で健康に
くらせるように

・保健
・衛生
・栄養
・教育

・問題を知る

・現地に行く

・支援の手伝い

・募金活動

・呼びかけ、
問題を知らせる

板書のPoint

提示した資料からわかったことや、考えられることを中心に板書をしていくことで、黒板とデジタル教科書・教材を提示する媒体との役割を分担する。

拡大表示で資料を細部まで見ることで、その資料がもつ意味についても考えられるようにする。

対話的な活動をつくるため、本時のまとめで出た発言を、矢印で関連性を示しながら板書する。



國學院大學教授 安野 功先生からの

ここがキラリ

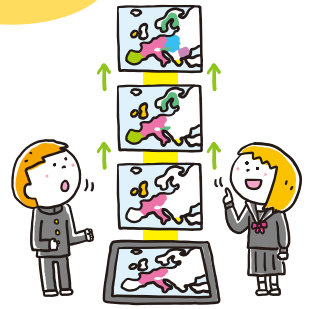
高学年の社会科では教科書が主たる教材です。その教科書を効果的に活用するうえで、今求められているのがデジタル教科書・教材を活用した資料の提示・読み取りの工夫です。例えば本実践では、写真や図版の単独拡大機能やスタンプ機能、凡例別表示

機能を用いた段階的な資料の提示・読み取り、資料の左右同時配置など様々な手立てを駆使して、「位置や空間的な広がり」「時期や時間の経過」などの見方・考え方を働かせて事象を捉え、それらをもとに考えたことを共有できるようにしています。タブレットの活用が急がれる今こそ、本事例を参考に、デジタル教科書・教材の活用にチャレンジしてみませんか。



ヨーロッパが統合する意義を考えよう

●奈良教育大学附属中学校 中村 基一



GIGA スクール構想の下で整備された生徒 1 人 1 台の端末。我々が教職員になった時には想像もできなかったような大きな変動が今まさに起こっている。そうした変化の中で、デジタル教科書の使用が広がっていくことは想像に難くない。また、我々教職員の働き方改革も叫ばれて久しい。新しいことにチャレンジしつつ、労働時間の縮減を果たすためには、オンライン化・デジタル化が必要不可欠である。生徒たちもデジタルネイティブ世代であり、オンライン化やデジタル化を当たり前の事として捉えている。紙媒体と電子媒体のメリット・デメリットをしっかりと把握し、双方の良さを使い分けていく必要がある。デジタル教科書も進化を続けており、教科書を拡大表示するだけではない様々な工夫が凝

らされている。そうした工夫を有効に生かし、授業準備の負担の軽減と内容の充実を両立させたい。

さて、ヨーロッパの統合については、地図帳を確認しながら行う授業がオーソドックスである。ここでも、地図帳が活躍する場面ではあるが、地図を読み取ることは生徒にとっては比較的時間がかり、難しいと感じることもある。そこで、デジタル教科書の強みを生かし、変化の様子や分布図を分かりやすく提示したい。例えば拡大機能や、地図を凡例別に表示する機能により、生徒たちの理解度を素早く高めることができる。そのため社会科教育に求められる「問い」を深めたり、突き詰めたりする時間を確保することが可能となるのではないかな。その方策を探求していきたい。

A ヨーロッパと周辺の宗教の分布
地図を凡例別に ON/OFF を切り替えることができます。

B 重要語句
巻末の重要語句に掲載されている重要語句は、クリックすると解説文がポップアップで表示されます。

C 外部リンク
駐日欧州連合代表部のWEBサイトを参照することができます。

D EU加盟国の拡大
地図を凡例別に ON/OFF を切り替えることができます。

E EU・アメリカ・ロシア・中国の比較
グラフを凡例別に ON/OFF を切り替えることができます。

F 深めよう・確認
問いの解答例を表示することができます。

本時の目標

ヨーロッパにおける統合の動きについて、おおまかな地域同士のつながりや、民族や宗派の分布について把握する。また二度の大戦の教訓をもとに、国境を越えて共生する社会が築かれたことを理解する。

本時の評価

ヨーロッパの地図や写真、グラフなどの資料を活用してヨーロッパの宗教の分布や、様々な民族が住んでいることを把握している。EUの拡大状況、また、EUの概要を把握し、EUによる統合が進んでいくメリットを理解している。

本時の展開例

生徒の活動と内容

🕒…配分時間

👨‍🏫…教師の発問・指示・説明例

👧…予測される生徒の発言

導入

宗教の分布図から、ヨーロッパには文化、言語の違いなどがある様々な民族が住んでいることを確認する。

👨‍🏫ヨーロッパで信じられている宗教は何でしょう？

👧キリスト教。

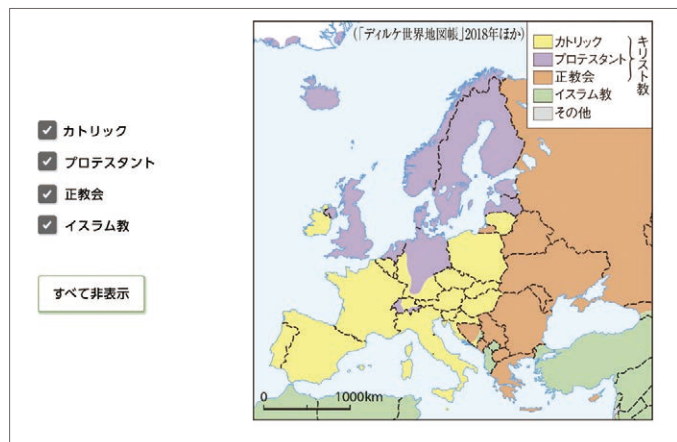
👨‍🏫ヨーロッパと周辺の宗教の分布図を見ると、キリスト教にも様々な宗派がありますね。キリスト教という大きな枠組みでは共通していますが、細かな教義などが異なっています。このような文化や言語などで分けられる民族を単位として国がつけられています。

👨‍🏫たくさんの小さな国に分かれているメリット・デメリットを考えましょう。

👧メリットは多様な文化や言語などが守られること。デメリットは戦争になったら負けそうなことや、貿易など経済的な競争に勝つのが大変そうなこと。

指導上の留意点

A



・前時にヨーロッパの国や場所について国土面積の比較的小さい国が多く存在していることを確認しているため、宗派や言語の分布と重ね合わせて考えさせる。このコンテンツでは、宗派ごとにひとつずつ表示しながら宗教の分布がおおよそ国ごとになっていることに気づかせる。

学習問題 さまざまな民族が生活するヨーロッパは、どのようにEUとしてまとまっていったのでしょうか。

展開

ヨーロッパが統合に向かう歴史を捉えさせる。

👨‍🏫歴史を少しでも紐解いてみましょう。世界中を巻き込んだ戦いが二回ありましたが、覚えていますか？

👧第一次世界大戦と第二次世界大戦。

👨‍🏫世界中に戦いは広がりましたが、きっかけとなったのは、ヨーロッパでした。このときヨーロッパは戦争で多くの被害を出したのです。そのためヨーロッパの人々は二度と戦争は起こさないでおうと決意します。

・第一次世界大戦、第二次世界大戦については小学校での既習内容を確認する。

⌚…配分時間

教…教師の発問・指示・説明例

生…予測される生徒の発言

教 二度と戦争を起こさないためにできることはなんでしょう？

生 違いを認める。

教 だけれども、そう簡単にはいきませんでした。ヨーロッパの東には社会主義大国ソ連が存在し、大西洋を渡った西側には資本主義の大国アメリカが存在しました。たくさんの小さな国に分かれているメリット・デメリットを考えましょう。

生 大国の間にヨーロッパの小国が挟まれている…。

教 だから、アメリカとソ連の対立に巻き込まれることになりました。そこで、その二カ国に対抗するためにヨーロッパの国々は対策を考えたのです。どのような対策をとればいいでしょう？

生 一つ一つの国では、大国には勝てないから、協力する。

教 その通り。軍事的・経済的にまとまることで、戦争に巻き込まれない強い力をつけようとなりました。何段階かの加入を経て、強力な共通政策を行う組織、ヨーロッパ連合 (EU) がつくられました。

ソ連崩壊後は、東ヨーロッパの国々も加盟するようになりました。ソ連が崩壊して、戦争の可能性が低くなったはずなのに、なぜ東ヨーロッパの国々は EU に加盟したのでしょうか？

生 何か、いいことがあった。

教 そうですね。例えば、ユーロという共通通貨が導入されています。多くの加盟国ではユーロが使えるのです。メリットは何でしょう？

生 両替しなくていい。

生 安いかわかりやすい。

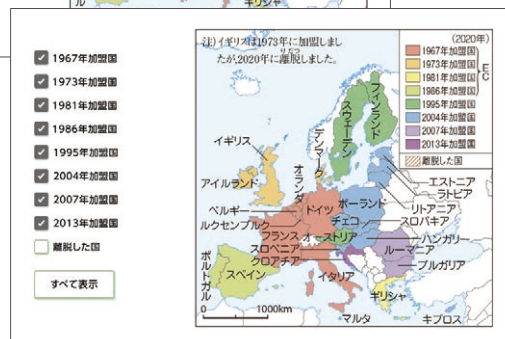
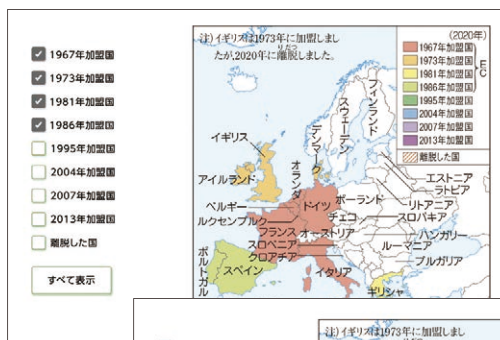
教 我々が旅行などで買い物をするだけでもとても便利ですね。さらに、EU は人や物が国境を通過するときの制限をどんどんなくしました。関税をなくしたり、パスポートなしで国境を通過したりできるようになりました。企業はたくさんのお金や人を動かします。そのときに両替しなくてよかったり、隣の国の人を雇ったりしやすいのは大きなメリットですね。

図版単純拡大機能



教科書の図4を単純拡大表示し、ヨーロッパの東側にあったソ連の存在の大きさを確認させる。日本の位置に注目させることで、その大きさが実感できるため、その脅威に対抗する必要性を感じ取らせたい。

D

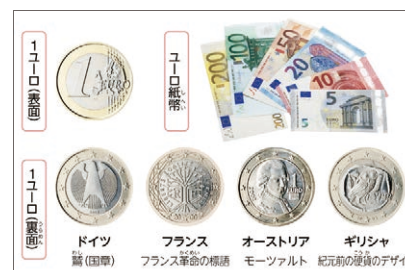


EU 加盟国の拡大状況を時系列で凡例ごとに表示していく。はじめから塗り分けられた図を見るより、拡大していく様子が明確になり生徒の理解につながる。また、1986 年加盟国以降の変化に注目させると東ヨーロッパの国々がソ連崩壊後に加入していく様子も捉えやすくなる。

共通通貨ユーロは教科書 P.59 に掲載されているものを単純拡大表示する。デジタル教科書で拡大すれば、紙面よりさらに硬貨のデザインを確認しやすくなる。

同じユーロでもそれぞれの国のデザインが異なり、その国のアイデンティティを示すものとなっていることを読み取らせたい。

図版単純拡大機能



本時の展開例

生徒の活動と内容

🕒…配分時間

👨‍🏫…教師の発問・指示・説明例

👧…予測される生徒の発言

👨‍🏫 EUとして統合が進んだ結果を、世界の大国と比べてみましょう。

👧 アメリカやロシアより人口が多い。

👧 GDPが中国より多い。

👨‍🏫 人口やGDPが多いのは、経済的なメリットが大きいことを示しています。ヨーロッパの一つ一つの国でそれぞれが行動するのではなく、EUとしてまとまることで影響力を高めることができたのです。

まとめ

🕒 15分

学習したことをもとに、日本も同じような組織があれば加入するべきか検討する。

👨‍🏫 日本もEUと同じような組織があれば加入するべきか、考えてみましょう。

👧 外国にパスポートなしで行けるのは便利。貿易でも有利になりそうなので賛成。

👧 お金が円じゃなくなるのは嫌だし、安い商品が入ってきたら日本の商品が売れなさそうなので反対。

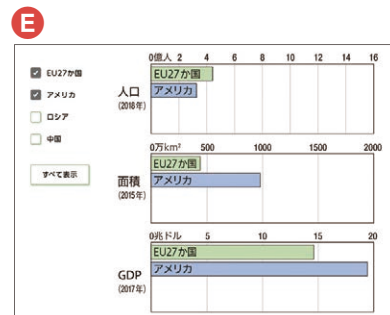
指導上の留意点

・EUと3つの国を凡例別に表示し、EUとしてまとまることで大国にひけを取らない経済規模や人口になることを確認させる。

・プロジェクター等を使って拡大した図を提示する事は生徒の理解度を測るうえでも重要である。生徒は顔を上げ、解説とグラフを同時に見聞きすることができ、その反応から理解度を推し量ることができる。理解度を確認しながら、随時補足をいれていきたい。

・ワークシートを使って、日本がEUのような組織に加入するメリットとデメリットを考えさせる。書いた後は数人のグループで話し合い、共有させる。

・結びつきを強くすると、経済的な利益や、大国に対抗できるというメリットがある。その反面、共通通貨を受け入れる（円を廃止する）という大きな変化も受け入れることになる。日本に置き換えてみることで、自国の通貨や制度を他の国と共通化する難しさに気づかせたい。また、例として東アジア共同体のような組織名を示すと、組織の規模や地域のイメージを持ちやすくなる。



元々は関税同盟



ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体 (ECSC)
資源や市場を共同で管理



ヨーロッパ共同体

経済的な結びつきも強める



ヨーロッパ連合 (EU)

EUの概要

1992年マーストリヒト条約

経済的結びつきから政治的結びつき・軍事的結びつきも強化

本部はベルギーのブリュッセル

日本も、EUと同じような組織に加入するべきだろうか？

板書のPoint

経済的な結びつきから政治的・経済的結びつきへと強化されていく事を捉えられるようにする。

EUが成立する過程を踏まえて、日本に置き換えて考えさせ、自分事化を促す。

生徒の意見を書く。賛成、反対どちらの意見も取り入れ、価値観を揺さぶる。

筑波大学教授 井田 仁康先生からの

ここがキラリ

本授業はデジタル教科書の活用により、地図の読み取り時間の効率化を図り、EUの理解に加え、自分ごととしての討論の時間を捻出していることに特徴がある。デジタル教科書は地図の重ね合わせを容易にし、事象間の関連性を見いだしやすくするこ

とは今までにも指摘されてきたが、討論の時間を捻出するためのデジタル教科書の活用という観点は、デジタルとヒューマニティをうまく組み合わせる方法として高く評価できる。討論ではアジアの国々（ASEAN）といった具体的なものにすると、統合による日本のメリット、デメリットを考えやすくなるだろう。

社会科のABC

小学校編

観察力と指導のポイント

● 國學院大學教授 安野 功

社会科の学習では、現場での学びを大切にします。農家や工場などのもの作りの現場、消防署などの安全なくらしを守る現場などを訪れ、観察や見学、聞き取りなどの体験を伴う学習をととして学んでいきます。子どもが実物や本物を直接見たり、触れたりすることをととして社会的事象を適切に把握し、具体的、実感的にとらえることができるようにするためです。

そのことを踏まえ、現場での学びにおいて必要となる観察力を育てる指導について、具体的に述べていきます。そのポイントは三つあります。

一つ目は、事前の指導を工夫して、どんな目的で、どこに着目し、何を観察したり、見学したりするのかを明らかにすることです。



この観察や見学の目的、視点や着眼点などにかかわる指導では、観察や見学が子どもの問題解決の流れに位置づくよう、学習問題を把握し、追究の見通しを立てる指導を工夫します。農家や工場、消防署などの現場で働く人たちの仕事場や仕事ぶりを自分で見て確かめる活動を行わなければ解決できない問いを引き出し、現場での着眼点や実際に見て確かめたいことをノートにメモし、話し合うなどの活動をととして、観察や見学の計画書を作成するのです。

二つ目は、現場でのきめ細かな指導・支援をととして、子どもたちが観察や見学の計画に基づき、各自で学習問題を追究できるようにすることです。

例えば、現場に到着したら、必ず計画書に目をと

時間を取り、目的や着眼点、観察や見学の仕方、メモの取り方、教師へのSOSサインの出し方などを確認します。観察



や見学の活動に入ったら、クラス全体の活動状況に目を配りつつ、個々の子どもにきめ細かく関わり、必要に応じて具体的にアドバイスしていきます。この現場での教師の指導が観察力を育てる鍵を握っています。

三つ目は、事後の指導を工夫して、観察や見学で見つけた事実やそれを基に考えたことを言葉で言い表したり、絵図や文章などにまとめたりすることです。

ここでは、観察や見学が正確に行われていたかどうかを子ども自身で確認できるようにするために、実物や教師が現場で撮影しておいた写真などを準備しておき、子どもの発言を裏づける際に提示したり、現場で働く人たちの生の声を映像で伝えたりするなど、子どもの主体的な学びを支える教師の指導が効果的です。

さらに、観察や見学の視点や着眼点、問題追究の過程などを振り



返る活動を行い、観察や見学などを実際に行うなかで体験的に身につけた学び方をその後の学習において活用できるようにすることも大切です。

観察や見学が子どもの問題解決の流れに位置づくように指導・支援しよう!

持続可能な社会の担い手を育てるために、 中学公民と公民科「公共」の接続を

● おおさか学びの会（前大阪教育大学非常勤講師） 丹松 美代志

● 中学公民「よりよい社会を目指して」から、公民科 「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」へ

中学校学習指導要領において、公民的分野の大項目 D「私たちと国際社会の諸課題」の(2)「よりよい社会を目指して」は、小学校社会科、中学校社会科の総まとめに位置付いています。そして内容としては、国際連合の提唱する ESD（持続可能な開発のための教育）や SDGs（持続可能な開発目標）を意識したものとなっています。（『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』 PP.163～165）

一方、高等学校公民科の新科目「公共」では、大項目 C「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」が設定され、次のような課題探究学習の手順の事例が示されています。

- ① 課題の設定／② 情報の収集と読み取り・分析
 - ③ 課題の探究／④ 自分の考えの説明、論述：構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述する。探究した過程や成果を分かりやすくレポートにまとめたり、プレゼンテーションをしたりする。レポートの作成については、調査・研究の目的、方法、考察過程、結論、参考文献、資料など必要な事柄を記述する。
- （『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』 PP.76～77）

そこで、中・高のスムーズな接続をめざして、中学校の「よりよい社会を目指して」の単元構想を示します。（全 13 時間）

- (1) 「洛中洛外図屏風 歴博甲本」等を手がかりに、日本の厠・トイレの歴史を協同で探究 [1h]
- (2) 『江戸名所図会』、『農業図会』（土屋又三郎）を手がかりに、し尿の売買の歴史を協同で探究 [1h]
- (3) 「焰硝とは何かの図」（『床下からみた白川郷』）か

- ら、し尿と火薬作りの関係を協同で探究 [1h]
- (4) 「下水道普及率のグラフ」（大阪府）、「下水道の仕組みの図」（東京都）から、下水道の問題点を協同で探究 [1h]
- (5) 『トイレは世界を救うーミスター・トイレが語る貧困と世界ウンコ情勢ー』（ジャック・シム）の6つの図から、世界のトイレ問題について協同で探究 [1h]
- (6) (1)～(5)で学んだことを土台にして、4人グループでSDGsの視点から課題を設定し、それを探究する方法を検討～ネット検索、図書館の活用、先行研究の調査、WTO（世界トイレ機関）・WHO（世界保健機関）・ユネスコ・JICA等の資料調査 [1h]
- (7) グループで設定した課題を探究。その内1hは口頭で中間発表と質疑 [3h]
- (8) グループでの中間発表と質疑で明らかになった課題を検討し、プレゼンのスライドを作成 [2h]
- (9) 各グループのプレゼンと相互評価 [1h]
- (10) 各自、この単元で学んだことと自分自身の提案をA4用紙3枚（3,600字）にまとめる [1h]

(1)～(3)は、歴史的分野で扱うことも可能です。

● 単元の目標と授業デザイン

この単元の目標は、「協同学習を軸に、多様な視点から厠・トイレ考にチャレンジし、SDGs（持続可能な開発目標）の理解とその実践力を高め、日本や世界のトイレ問題について探究し、自分の提案ができる。」です。生徒が主役の授業をめざして、生徒が資料を基に、3～4人のグループで探究する授業により、中高の接続を図りたいものです。

SDGs は、ESD（持続可能な開発のための教育）がエンジンとなって成立します（立教大学 ESD 研究所長 阿部治）。ESD による、持続可能な社会の担い手を育てる教育が、今、求められています。



単元構想の詳細は、「おおさか学びの会」のホームページに掲載しています。



●京都橘大学非常勤講師 杉山 勉



1 伏見の酒蔵



2 軍都の名残をとどめる標識



3 奉行所と御香宮の中間地点に残る当時の銃痕といわれる跡



4 伏見奉行所跡

京都府京都市伏見区



- 場所 京都府京都市伏見区
- 訪問時期 随時
- 訪問目的 散策
- アクセス JR 奈良線桃山駅・京阪桃山御陵前駅周辺

伏見は酒のみならず

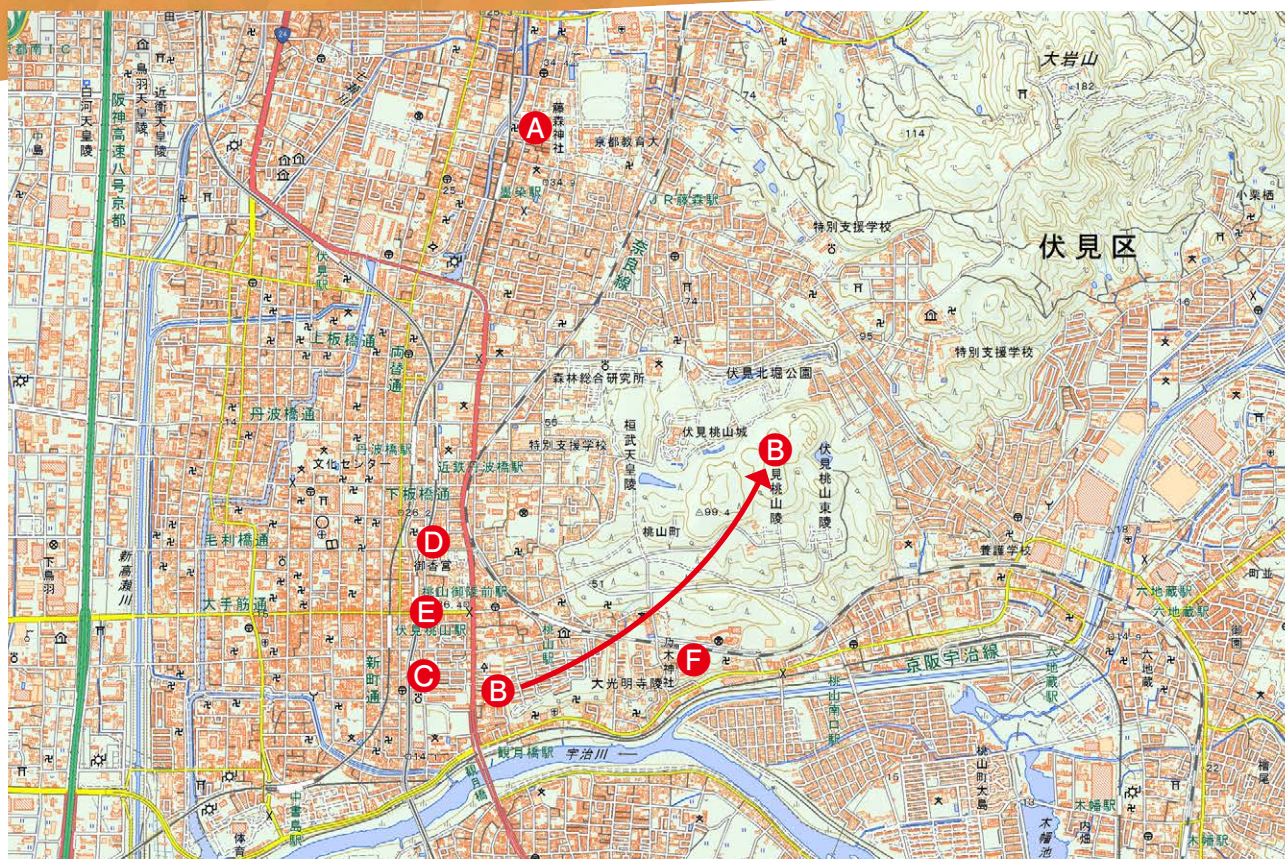
京都市南部に位置する伏見の地は、古くから酒が有名である。京都盆地の地下には琵琶湖の水量に匹敵する量の地下水があり、現在もこの地にわき出た水（伏水）で酒がつくられ続けている。伏見の云われはここにある。しかし伏見はそれだけではない。

いくさに関係の深い伏見

鎌倉時代、元寇の戦利品を納めた蒙古塚を有する^A藤森神社がある。ここは菖蒲（端午）の節句発祥の地であり、菖蒲は勝負に通ずる。

京の都に近く、水運の要所である伏見に城下町を発展させたのが、豊臣秀吉である。今も戦国大名の名が残された町名が伏見のあちこちにみられる。

本来なら織豊時代は安土伏見時代とよぶべきなのに、なぜ安土桃山時代とよぶのか。3代将軍徳川家光の治世、伏見城周辺は桃の花が咲き誇っていたそうだ。そこから安土桃山時代と云われるようになった。本当の戦国時代終焉は、家光が京都から江戸で政治を行うため、^B伏見城を取りつづしたこの時であろう。



5 伏見区周辺の地形図 (Bは慶長伏見地震の後に移転した)

鳥羽伏見の戦いから 軍都伏見へ

天領であり、京と大坂を水運で結ぶ伏見は港町として大いに栄えた。西国大名の参勤交代は京の都を通ることができず、この伏見の各所に藩邸が置かれた。今では各藩邸跡地に碑があり、C伏見奉行所の石垣もそのまま残されている。

慶応4(1868)年正月、15代将軍徳川慶喜は天皇謁見の名目で大坂城から淀川を北上し、鳥羽街道へ。別隊は伏見港から伏見奉行所に入る。鳥羽では城南宮、伏見ではD御香宮で薩長を中心とする新政府軍が対峙する。伏見奉行所と御香宮は100m足らず。ここで鳥羽伏見の戦いが始まった。ちょうど奉行所と御香宮のE中間地点に、当時の銃痕といわれる跡がある。

明治以降、旧天領伏見を日本の首都とする案もあったが、東京に遷都される。政府は伏見各地に陸軍の施設や演習地をつくり、旧奉行所を廃して親兵(近衛兵)を配備し、次いで陸軍用地として施設を置いた。

伏見には、70年近く軍都として栄えていた跡を見つけることができる。明治天皇が眠る桃山御陵の南東(裏鬼門)にF乃木神社がある。ここには乃木大將が、日露戦争で指揮を執っていた中国のレンガ造りの家屋が移築されている。さきの藤森神社や乃木神社は戦勝祈願の地として、かつては軍人が、今はスポーツ関係者が大勢祈願に訪れる。

GHQ駐屯地としての伏見

太平洋戦争後、かつて伏見奉行所であり旧日本陸軍伏見工兵第十六大隊であったところに、GH

Qの駐屯地が置かれた。江戸幕府の奉行所、明治政府の陸軍用地、戦後の連合軍の駐屯地として、伏見は日本の歴史に大きく関わってきた。GHQが引き上げたあと、京都市の集合住宅が建ち、現在に至る。

平和を子どもたちにつなぐ伏見

コロナ禍で遠くに行けない中、私が住んでいる伏見で散歩することが増えた。そして何気ない平穏な集合住宅地に大きな歴史の流れをみる。「歴史は地理の中にある、地理は歴史の中にある。」散策中に視点を変えると、新たな発見がすぐそばにある。平和のありがたさを今後も子どもたちに伝えていきたい。

●杉山 勉 (すぎやま つとむ)

京都橘大学非常勤講師
京都ユネスコ協会常任理事
日本文教出版『中学社会』教科書著者

焼跡の子どもたち

―敗戦直後の報道写真から

●日本大学教授 大岡 聡



▲【写真1】利用客が行き交う上野駅ガード下にて（1945年11月，不明）
公益財団法人 政治経済研究所 提供



▲【写真2】寒空の上野公園にて（1946年1月，菊池俊吉）



▲【写真3】兵舎を転用した施設にて（1946年5月，林重男）
公益財団法人 政治経済研究所 提供

史料としての報道写真

19世紀前半にフランスで実用化された写真術は、幕末の日本に輸入され、内外の写真師たちは、文明開化以前の日本の風景や暮らし、人物の表情を写真に収めた。20世紀になって写真・印刷技術の発達につれ、新聞での写真使用が増え、1920年代には社会の現実を広く伝えようとする報道写真というジャンルも成立した。激動の近現代史は、こうして写真によって記録された。

写真が持つ力はプロパガンダにも利用された。1938年に内閣情報部が『写真週報』を創刊し、戦意高揚・国策宣伝に用いた。陸軍傘下の東方社は、海外向け国策宣伝誌『FRONT』を発行した。これらには、多くの優れた報道写真家が参加した。

敗戦後に東方社は解散し、所属していた写真家の木村伊兵衛、菊池俊吉、林重男らは、国策から自由となって、焼跡の東京の「ありのまま」を記録しようと、精力的な撮影活動をおこなった。彼らの写真は、アメリカ軍の空襲によって徹底的に破壊された首都・東京の現実と、復興に向かう人びとの動きを捉えており、そのなかには困難な状況を生きた子どもたちの姿を見ることができる。

東京空襲と子ども

戦時の子どもたちの日常は、空襲に先立ってすでに破壊されていた。学校教育は、天皇と国家に奉仕する「皇国民」を育てる教育に転換しており、戦争が行き詰まりを見せるにしたがい、家族の出征や徴用、家業の転廃業、建物疎開などで、暮らしの安定が損なわれていった。1944年6月の「学童疎開促進要綱」により、大都市の国民学校初等科3～6年生は強制集団疎開の対象となった。子どもたちは親元を離れて農村部の寺や旅館に疎開したが、寂しさとひもじさ、そして集団生活でのストレスに悩まされた。

1944年11月から東京への空襲が本格化した。アメリカ軍のB-29爆撃機による東京空襲では終戦までに、死者11万人、負傷者15万人、罹災者300万人に及び、市街地の50%が消失した。特に



▲【写真4】罹災者施設の学校にて
(1946年5月, 林重男)
公益財団法人 政治経済研究所 提供



▲【写真5】ある国民学校の校庭にて
(1946年5月, 林重男)
公益財団法人 政治経済研究所 提供



▲【写真6】焼跡の寺院にて(1946年2月, 不明) 公益財団法人 政治経済研究所 提供

1945年3月9日から10日にかけて、一夜にして10万人もの人びとが犠牲となった下町空襲や、4月と5月の2度にわたる山の手空襲は、夜間に住宅密集地を狙って、大量の焼夷弾を降り注いだ無差別爆撃であった。疎開児童たちは帰る家を失い、家族を失った。3月10日空襲では、進学準備のために疎開先から一時帰宅していた6年生が多く犠牲となった。

終わった戦争／終わらない戦後

空襲で保護者をすべて失った子どもたちは「戦災孤児」となって、筆舌に尽くしがたい苦難に直面することとなった【写真1・2】。上野駅の地下道などで雨露をしのぎ、肩寄せあって暮らしていた孤児たち。彼らは人びとから憐憫のまなざしを受け一方、「浮浪児狩り」と呼ばれたような手荒な取り扱いを受けて、児童保護施設に送られた。施設や引き取られていった先で、肩身の狭いを思をした者も多かった。身寄りのない者への社会の偏見にも耐えねばならなかった。

【写真3】は、罹災者収容施設に暮らす家族である。仕切りのない3～4畳のスペースに1家6人

が暮らした。ここに暮らす子どもが通った学校の授業風景が【写真4】である。きょうだいを背負いながら、二人で1冊の教科書を真剣に見つめている。

戦争は終わった。街も復興していった。しかし、戦災孤児を始め、戦争で家族を失い、生活基盤を失った人びとや心身に傷を負った人びとは、十分なケアや補償を受けられないまま、生活苦や差別と戦い続けなければならなかった。戦後はなかなか終わらなかった。

子どもたちはカメラに向かって屈託のない表情をも見せた。娯楽が少ない中で、紙芝居を楽しむ子どもたち（【写真5】）、焦土を見下ろす丘の境内で、無邪気にゴム跳びに興じる子どもたち（【写真6】）。その後彼らは、どのような戦後を生きたのであろうか。

●大岡 聡 (おおおか さとし)

専門分野／日本近現代史
主要著書／『「焼跡」を歩く―『東京一九四五年・秋』への視角』（東京大空襲・戦災資料センター監修『東京復興写真集』勉誠出版、2016年）、『空襲被災者と戦後日本』（東京大空襲・戦災資料センター、2018年）。
日本文教出版『中学社会』教科書著者



ワクチン接種をめぐる政治と行政 (1): 国際比較

● 京都大学大学院教授 曾我 謙悟



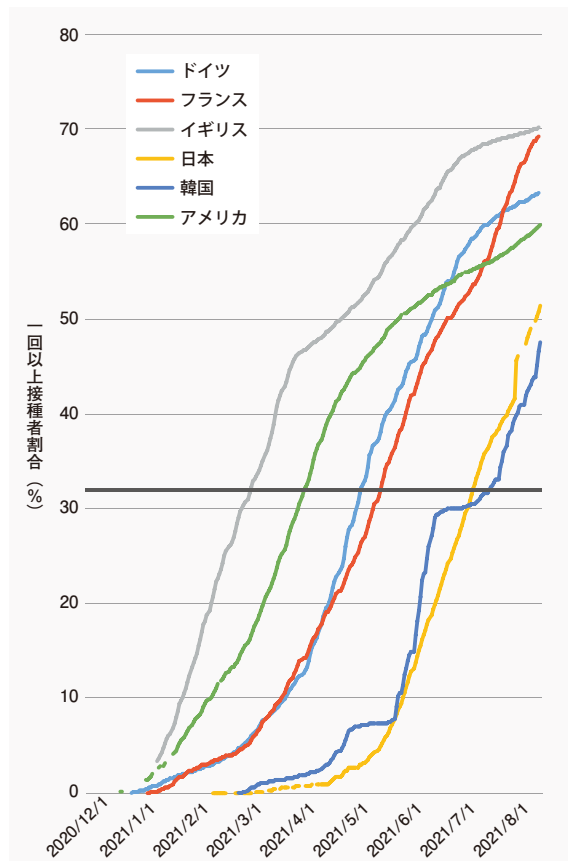
1. 接種状況の国際比較

この一年半、新型コロナウイルス感染症にわたしたちの社会は計り知れないほどの影響を受けてきました。そうした中、切り札として期待されたのがワクチン接種ですが、数が不足し、予約が取れないなど、混乱が続いてきました。読者の皆様の中にも、色々と苦労を経験されたり、不便を感じたりされた方も多いのではないのでしょうか。

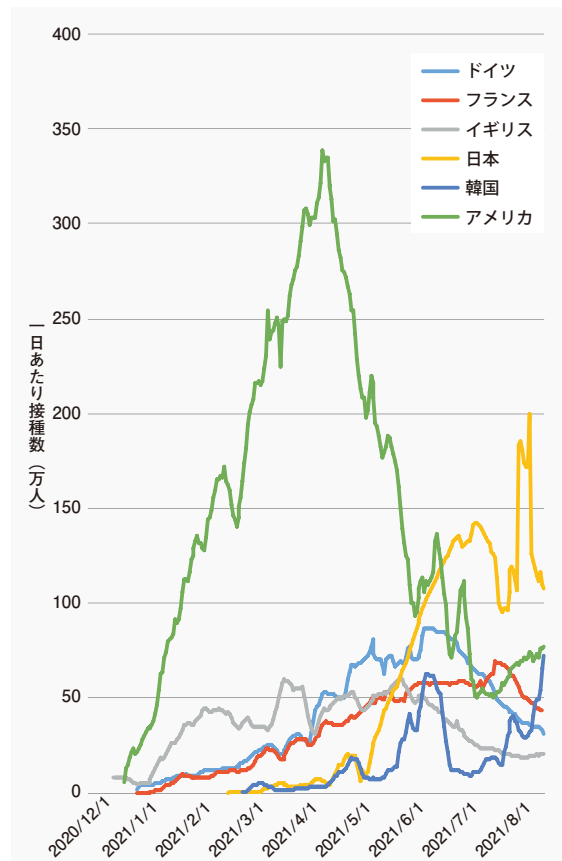
それでは一体、ワクチン接種はどのようなしくみで、どのように進められてきたのでしょうか。この問題を考えることは、社会のあり方や、政府と自治体における政治や行政のあり方を考えるよい題材になります。いくつかのポイントを考えてみましょう。

まず、日本のワクチン接種の状況を他の国と比較して、確認しておきましょう。図1は、少なくとも一回の接種を受けた人が、国民の何%にあたるかを示した図です。執筆時点の8月20日のデータを用いており、水平線はその時点での世界平均である32%を示します。日本の場合、韓国などと同様、欧米に比べて立ち上がりが遅いのですが、その後は欧米諸国と同様の速度で接種を進めてきています。

さらに、図2では、一日あたりの接種回数を示しています。日本は6月以降、毎日100万回を超える接種を行っており、現在は最も接種回数の多い国になっています。ピークでは200万回近くとなっており、人口が3倍近いアメリカでも300万回強であることと比べても遜色ありません。日本は、



▲ 図 1



▲ 図 2

※図 1・2 出典：Our World in Data (<https://ourworldindata.org/covid-vaccinations>) のデータを用いて筆者作成

人口減少を迎えているとはいえ、先進国の中では人口が多く、加えて高齢者比率が高いため、国民全体への接種を行うのはより困難な条件にあります。それでも、実際の接種の絶対量でみれば、相当の業績をあげているといつてよいでしょう。

2. 接種の広がりメカニズム

2つの図の間には、図2に示される毎日の接種が積み上がって、図1の累積の接種者数となるという関係があります。そして累積の接種者数は、最初は緩やかに、その後大きく上昇を見せた後、徐々に上昇の速度が緩やかになっていくといったS字型カーブを描いていること、図2でピークを過ぎると図1の上昇速度が緩やかになる転換点となることがわかります。

なぜ、このような現象が生じるのでしょうか。S字型カーブは、社会に新しい物事が普及する際の普及率、たとえばスマートフォンの普及率などにも見られるものです。最初は新しいものの好きの人だけが買っているものだったのが、持つ人が次第に増えてくると自分もほしくなる人が増えます。さらには流行に乗り遅れまいとする人が続きますが、相当行き渡ったあとでも持たないのは、断固として持たない人ですからそう簡単には入手を行わない。こうした結果、S字型の普及曲線が生まれます。

では、ワクチン接種率のS字曲線も同様なものかというところ、同じところもあれば、違うところもあります。スマートフォンの普及の例では、人びとの行動、いわば需要側の行動がS字曲線を形づくれますが、ワクチン接種については、ワクチンを生産、供給する側の問題も関係してきます。特に今回のように、ワクチンを新規に開発しなければならなかった場合、生産量が需要に追いつくには時間がかかるので、最初の段階ではそれが普及の妨げとなります。つぎに、ワクチンの供給が行われたとしても、それを人びとに行き渡らせるためには、接種を行っていかねばなりません。そこでは、配分や流通のしくみを整えることや、誰に接種を行ったのかの情報を管理すること、実際の接種業務を行う人員を確保し、場所を用意することなどさまざまな業務の組み合わせからなる実施体

● 曾我 謙悟 (そが けんご)

専門／行政学

主要著書／『日本の地方政府』（中公新書、2019年）、『現代日本の官僚制』（東京大学出版会、2016年）、『行政学』（有斐閣、2013年）など
日本文教出版『中学社会』著者



制の整備が必要となります。これがいわば第二段階での普及速度を左右する要因となります。最後に第三の段階とは、供給側の問題は解消されているので、需要側、つまり人びとの行動が問題となります。ワクチンに伴う副反応などを警戒することから、ワクチン接種を忌避する人びとがどの程度存在するかが、この第三段階を左右します。

3. イギリスとアメリカの事例

このようなメカニズムを理解すると、図1と図2から、さらに多くのことを読み取れるでしょう。イギリスとアメリカはワクチン開発に成功した製薬企業を抱えることが、第一段階からの立ち上げの早さにつながっています。アメリカはその後、圧倒的な接種回数を実現し、底力を見せました。しかしその後、第三段階に早々と入ってしまいます。人種によってワクチン忌避の程度に違いが見られることや、分極化の動きが強く、感染症への態度や対応もまた、党派性によって規定されがちなことが影響しているのでしょう。

他方、イギリスは多くの感染者を出していた状況だったこともあり、二回目の接種を引き延ばしてでも、一回目の接種をできるだけ多くの人に広げる戦略をとりました。そのことが、図1において当初からの立ち上がりが大きく、直線的に、一回は接種した人びとの割合を上昇させることにつながっています。実施体制についても、イギリスの場合、国営で国民や外国人住民をカバーする医療サービス（NHS）が存在し対象者の把握などが確実に行われたこと、医者以外も含めて接種を実際に担う人員確保を準備してきたことなどもスタートダッシュの成功に寄与したといえます。

それでは、日本における状況はどのようなものかといえるのでしょうか。字数が尽きましたので、次回、ここまでの経緯やその原因を考えていきたいと思います。

壱岐市ってどんな町？

長崎県壱岐市は、九州最大の都市である福岡市から高速船で約1時間、対馬暖流の影響もあり、気候は温暖で過ごしやすい地域です。2018（平成30）年には第1回SDGs未来都市および自治体SDGsモデル事業に選定されました。

昔から稲作や漁業がさかんで、第1次産業、とくに農業に従事している人の数は全体の13%を占めているのが特徴です。壱岐市の基幹作物の一つであるアスパラガスは、平均収量が10アールあたり約3トンと、長崎県下のなかでも壱岐市が最も多くなっていて、2011（平成23）年に離島で初めて日本農業大賞を受賞しています。そんな農業従業者にとっての課題である、生産者の高齢化や担い手不足を解消するため、IoTやAIなどの先進技術を取り入れたスマー



▲ 美しい自然に囲まれる壱岐市

ト農業の実現をいち早く目指しているのが、市内のアスパラガス農家です。

省力化と収量アップを 叶えた自動かん水システム

アスパラガス農家の生育活動プロセスのなかでとくに、「省力化」と「生産性向上」を目的に掲げました。そして、アスパラガスの生育多少の要因は、日照および土壌水分量に起因しているという仮説実証に成功しました。それを受け、現在、土壌の最適水分量を維持するかん水システムの開発が進んでいます。これは、各種センサーやビッグデータを活用し、最適水分量を維持するよう予測するAI部分と、手足となるかん水装置との連携を行ったかん水システムのことで、2020（令和2）年の実証実験段階では、10～20%の収量アップ、50～60分の作業の省力化に成功しています。

このシステムがあれば、高齢の

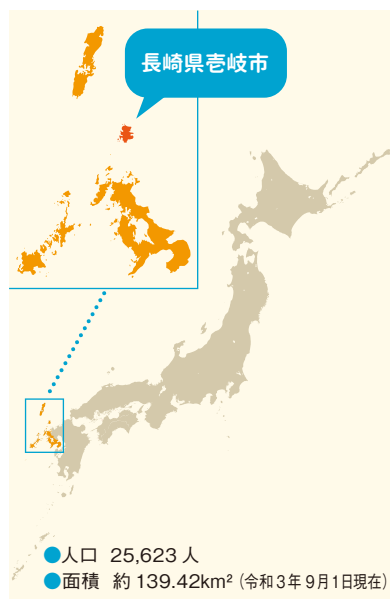


▲ 自動で水やりができるかん水装置

農業従事者の作業負担を減らすことができます。さらに、経験に大きく依存する作業をAIに覚えさせているので、新規就農者でも初めから収量を増やすことができるだけでなく、効率よく栽培技術を身につけることもできます。

食品ロス削減の活動や ドローン輸送の実施

壱岐市が誇るアスパラガスですが、キズや曲がり、先折れ、長さをそろえる際に切った根本部分な





▲ 規格外のアスパラガスと調味料、スマデリバッグ[®]、レシピをセットにして販売している

どは規格外品として、年間約30トンも発生しています。これは香川県で生産されるアスパラガスの約1割に当たります。それらの活用を課題とし、調味料とアスパラガスを詰め合わせた「香川県アスパラガス料理キット」や、電子レンジでできる簡単レシピの提供、規格外品を使った加工品の開発などにも力を入れています。

香川県では、ドローンを活用した生産物の自動輸送も検討しています。農業従事者の作業低減と、収穫した農作物をお客様に直送することで、新鮮さの品質担保による付加価値で稼げる農家の一翼を担う、ということが目的です。さらには、最新技術を活用することで若年層の興味をひき、新たな担

い手を獲得するという目的もあります。また、ドローンについては、玄海原発から近い香川県や離島に住む人たちの、避難時の活用も検討しています。

未来に向けての事業展開

AIによる自動かん水システムは2022(令和4)年の商品化に向けて動き出しています。まずはこのシステムを香県市のなかで普及させて、アスパラガス農家の省力化、作付農家を増やすことを目標に、

最終的には全国展開していきたいと考えています。

アスパラガス農家の人に話を聞くと、一番大変なのは収穫作業なのだそうです。それをふまえ、現在は自動収穫ロボットの導入および、農薬や肥料をまく作業なども全自動で行えるようにしていく予定です。

●問い合わせ先

長崎県香川県 SDGs未来課
〒811-5192 長崎県香川県郷ノ浦町本村触
562番地
TEL 0920-48-1111(代表)

教材化のポイント



●広島修道大学教授 永田 成文

1. スマート農業としてのアスパラガス栽培

香川県は、比較的福岡市に近いが、他の離島の過疎地域と同様、少子高齢化と人口減少による地域の活力低下が喫緊の課題となっている。平地に恵まれ、農業従事者の割合が高い香川県では、農業がさかんな他地域と同様に生産者の高齢化や担い手不足が深刻化している。このため、アスパラガス栽培などでIoTやAIといった先進技術を導入したスマート農業を積極的に推進することで、労働時間短縮と収量増を実現し、新たな担い手を創出しようとしている。

2. SDGsの視点と社会科授業

持続可能なまちづくりの一環としての対策がスマート農業の推進である。これはSDGsの9「産業と技術革新の基盤をつくろう」にかかわり、結果として8「働きがいも 経済成長も」を実現する。

小学校社会科第5学年の食料生産の学習で、SDGsを踏まえた野菜づくりの事例として、スマート農業を取り上げることができる。中学校社会科地理的分野の中項目「地域のあり方」で、少子高齢化や人口減少による活力低下が課題である地域において、解決策としてスマート農業を構想したり、公民的分野の中項目「よりよい社会を目指して」で、地域の課題解決と経済発展を両立させるためにスマート農業を取り上げたりして、持続可能なまちづくりについて議論することが考えられる。

●永田 成文 (ながたしげふみ)

小・中・高等学校の教員、三重大学の教員を経て、現在、広島修道大学教授 専門は社会科教育学(地理ESD授業)



新刊のお知らせ

地域から創出される社会科の「深い学び」とは？



- 「授業構想シート」と「授業分析シート」を活用した授業づくり
- 「深い学び」へ誘う5つのしかけとは？
- 「学びⅡ問いの連続」を原点にした校内研修
- 思考の山場を生み出す1単位時間の授業改善
- 教科書教材と地域教材の組み合わせで「深い学び」を創り出すためのポイント
- 子どもの姿から「学びの深まり」を見取るために

深い学びへ誘う社会科の授業づくり

視点の意識化と問いの質の向上への取り組み
～兵庫県佐用町立利神小学校の研究から～

著者 広島大学准教授 永田忠道
元兵庫県佐用町立利神小学校校長 桑田隆男

●B5判／116ページ

●定価2,200円

(本体2,000円+税10%)

書籍のご購入をご希望の方は、
全国の書店、またはamazon等の
オンライン書店にてお買い求め
ください。

社会科 NAVI Vol.29

日文教育資料 [小・中学校社会]

令和3年(2021年)10月15日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33567

日本文教出版 株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18・F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690